

市民グループ「風」の学習会

2008年7月8日

講師 武田公子先生（金沢大学教授）

「地方財政をめぐる全般的動向と津幡町財政」

なんとなく難しいような気がして敬遠していた「地方財政」。しかし、武田先生の資料を用いながらの説明で、霧が晴れていくように、津幡町の財政の様子がわかってきました。

グラフで類似団体（人口・産業構造が類似している町）の平均と津幡町を比較して、説明していただきました。

1、 津幡町歳入主要項目の推移

類似団体と比べると、地方交付税が高い。地方債が多い。

2、 津幡町目的別歳出種痘経費の推移

類似団体と比べると、津幡町の歳出規模が大きい。教育費と土木費が高い。

3、 津幡町普通建設事業費目的別費目の推移

類似団体と比べると、2と同様、歳出規模が大きく、特に土木費と教育費が大きい。

4、 津幡町普建を除く目的別歳出

民生費と公債費が右肩上がりの急成長！？ 公債費とは、借金返済費のこと。この急成長は、借金返済で青息吐息ということ？

5、 最後のグラフ（財政指標の推移）を見ると、経常収支比率が100%近くに。これは、財政の余裕度をあらわしており、低いほど良いのだとか。これが100%近いということは、危機的症状であるということ？

財政のチェック機能としては、**1、町議会 2、監査委員会 3、住民の監査請求**があるそうです。町議会や監査委員会のチェック機能は、正常に機能しているのでしょうか？津幡町はどうなっていくのでしょうか？

町の財政危機をどうしたら改善していけるのでしょうか？

市民グループ「風」は、さらに学習していきたいと思っています。